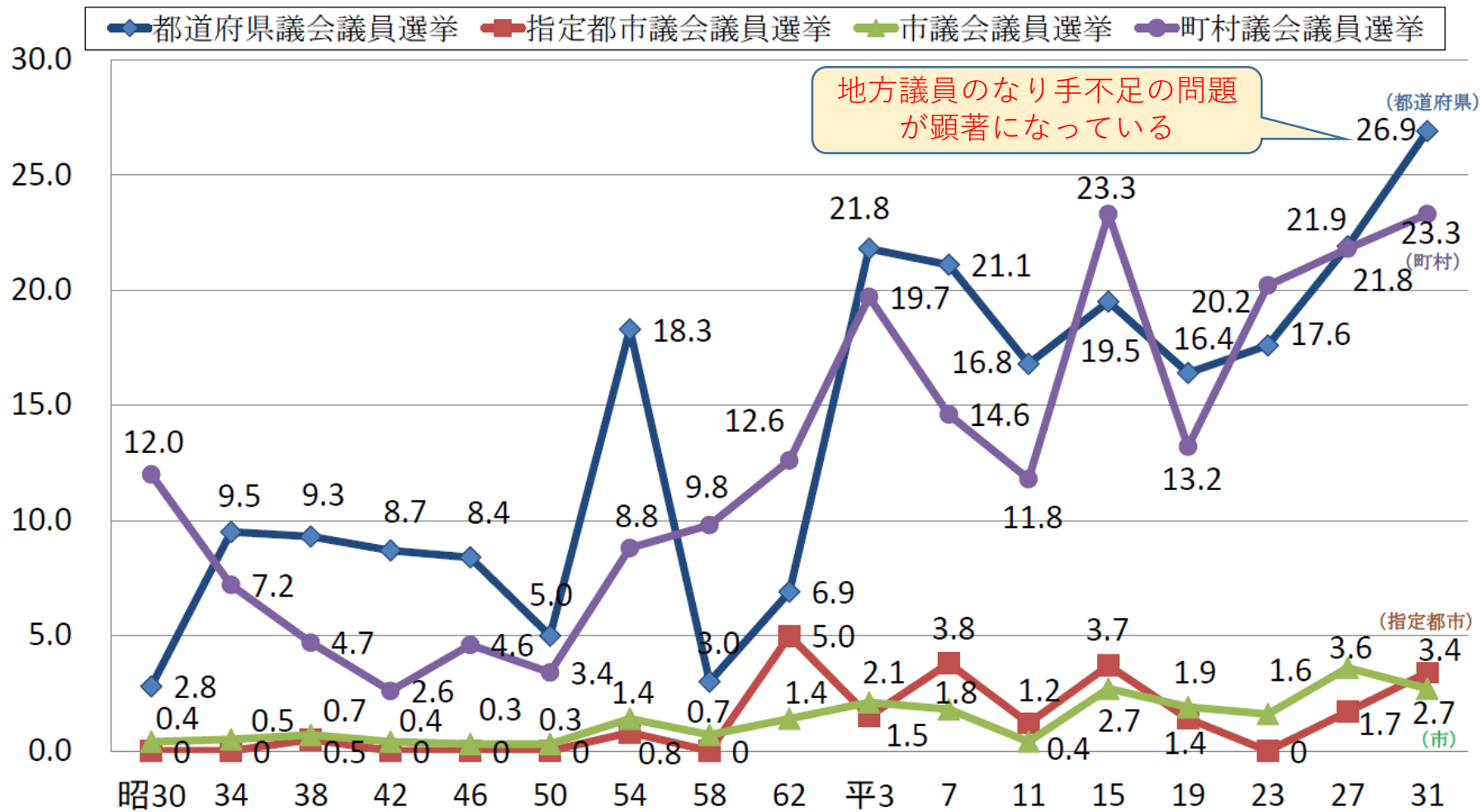


地方議会についての現状と課題 【参考資料】

令和6年12月

統一地方選挙における改選定数に占める無投票当選者数の割合の推移



地方議員のなり手不足の問題が顕著になっている

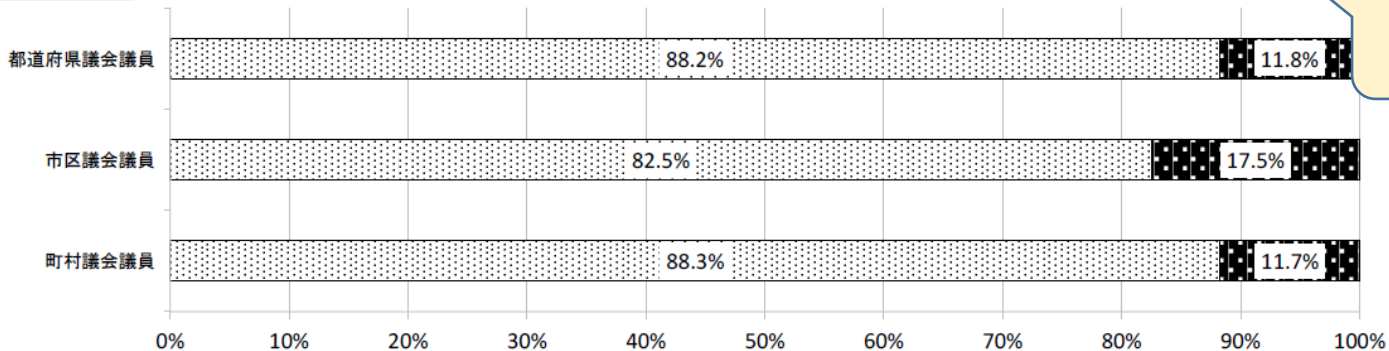
出所：総務省「地方選挙結果調」等を基に作成。（本調査は、統一地方選挙の際に実施したもの）
 注1：第1回、第2回統一地方選挙の際には調査を実施せず。
 注2：市については、東京都特別区を除く。

□ 議員の構成は、住民の構成と比較して女性や60歳未満の割合が極めて低い状況となっており、性別や年齢構成の面で多様性を欠いている。

女性や若者の地方議会への参画が社会課題解決のために重要

□ 男性
■ 女性

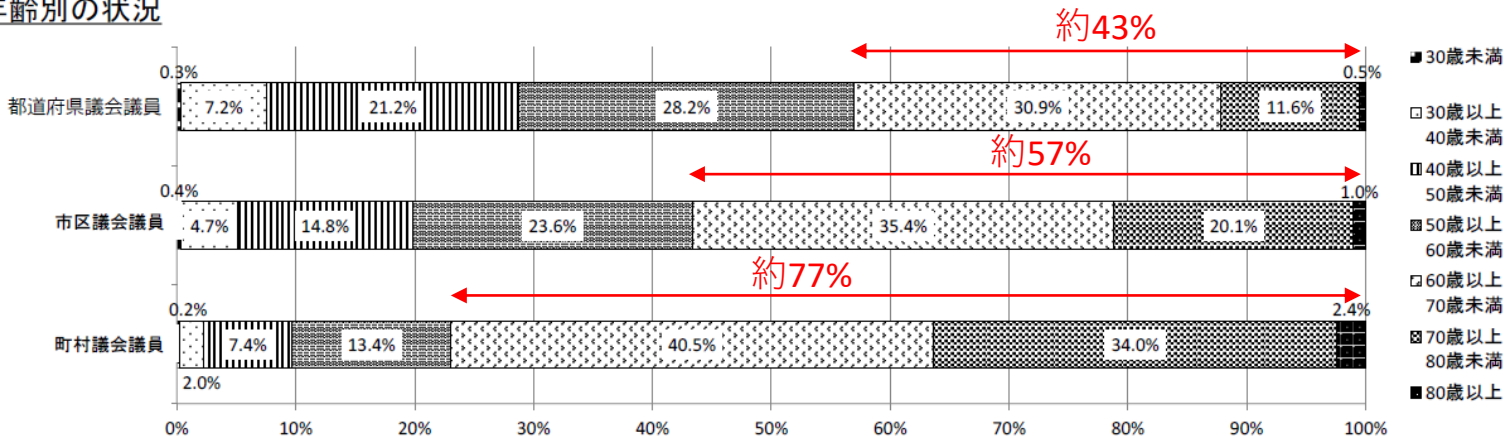
○ 男女の比率



出典：総務省「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調」(令和3年12月31日現在)

(参考) 令和2年国勢調査における人口に占める男女比：男性49% 女性51%

○ 年齢別の状況



注：小数点第2位以下四捨五入のため、割合の合計が100%とならない場合がある。

出典：全国都道府県議会議長会「第14回都道府県議会提要」(令和元年7月1日現在)
 全国市議会議長会「市議会議員の属性に関する調」(令和3年7月1日現在)
 全国町村議会議長会「第67回町村議会実態調査結果の概要」(令和3年7月1日現在)

(参考) 令和2年国勢調査における人口に占める60歳以上の比率：34%

【調査の概要】

1. 立候補を検討したが断念した者に対するアンケート調査

国政選挙や地方議会選挙、首長選挙に立候補しようと考え、具体的な行動（身近な人に話す、政治家に話を聞く等）を起こしたが、断念した者を対象としてインターネットモニター調査を実施（調査期間：令和2年12月24日～令和3年1月31日）。合計994人（男性500人、女性494人）から回答を得た。

2. 男女の地方議会議員に対するアンケート調査

地域、議会の種類等を考慮して抽出した1,144の地方議会の男女議員10,100人を対象として、紙媒体の調査票又はウェブによる調査を実施（調査期間：令和2年12月25日～令和3年1月31日）。合計5,513人（男性3,243人、女性2,164人）から回答を得た（回収率54.6%）。

1. 立候補を検討したが断念した者に対するアンケート調査結果

(1) 立候補を断念した理由

◆ 立候補を断念した理由の上位3項目は、男女共に、「立候補に係る資金の不足」、「仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動とその準備にける時間がない」、「知名度がない」となった。

上位10項目についてみると、「自分の力量に自信が持てない」、「当選した場合、家庭生活との両立が難しい」で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表1-1】

【表1-1】立候補を断念した理由（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計、女性の上位10項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	立候補にかかる資金の不足	68.0%	63.6% (1位)	5	選挙運動とその準備の方法が分からない	49.6%	42.2% (9位)
2	仕事や家庭生活（家事・育児・介護等）のため、選挙運動とその準備にける時間がない	61.7%	62.4% (2位)	7	自分の力量に自信が持てない	48.0%	38.4% (11位)
3	知名度がない	60.9%	62.4% (2位)	8	当選した場合、家庭生活との両立が難しい	47.8%	38.8% (10位)
4	当選の見込みが低く感じられた	56.3%	56.6% (4位)	9	当選した場合、仕事をやめなければならない	47.2%	44.2% (7位)
5	家族の理解やサポートが得られない	49.6%	51.2% (5位)	10	政党や団体のポスティング支援、金銭的助成等の支援が得られない	45.3%	46.2% (6位)

※全17項目についてそれぞれの程度あてはまるかを選択。 ※男女間で7.0%ポイント以上の差があるものに不等号を記載。

立候補環境の整備や当選後も仕事を続けられる環境の整備が、女性や若者の地方議会への参画につながる可能性がある

2. 男女の地方議会議員に対するアンケート調査結果

(1) 立候補を決める段階から選挙期間中の課題

◆ 立候補を決める段階から選挙期間中の課題について、女性の上位3項目は、「知名度がない」、「仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため、選挙運動とその準備にかかる時間がない」、「選挙運動とその準備の方法が分からない」となった。上位10項目についてみると、「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けた」、「自分の力量に自信が持てない」、「知名度がない」、「地元で生活する上で、プライバシーが確保されない」等で男女の差が大きくなっており、女性にとって大きな障壁となっていることが分かる。【表2-1】

【表2-1】立候補を決める段階から選挙期間中の課題（「大いにあてはまる」と「ややあてはまる」の合計、女性の上位10項目）

順位	項目	女性	男性	順位	項目	女性	男性
1	知名度がない	59.8%	38.1% (4位)	6	立候補にかかる資金の不足	40.0%	39.7% (3位)
2	仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため選挙運動とその準備にかかる時間がない	48.9%	36.5% (5位)	7	当選した場合、議員活動と家庭生活との両立が難しい	30.4%	18.5% (11位)
3	選挙運動とその準備の方法が分からない	46.4%	40.6% (2位)	8	立候補を阻むような言動を受けた	29.9%	20.1% (10位)
4	自分の力量に自信が持てない	42.1%	18.5% (11位)	9	当選した場合、仕事を辞めなければならない	26.2%	24.3% (7位)
5	地元で生活する上で、プライバシーが確保されない	40.4%	26.1% (6位)	10	性別による差別やセクシャルハラスメントを受けた	24.9%	0.9% (17位)

立候補環境の整備や当選後も仕事を続けられる環境の整備が、女性や若者の地方議会への参画につながる可能性がある